

めあて
文章を正しく読み取ろう。

ここまでのあらすじ
中学生の坂井知季（さかいともき）たちは、ミズキダイビングクラブ（MDC）に所属して飛び込み競技の練習をしている。そのMDCに浅木夏陽子（あさきかよこ）がコーチとしてやってきた。彼女は特別な練習メニューを示して、オリンピックを目指すという。ある日、夏陽子は、知季たちのライバルとして高校生の沖津飛沫（おきつしぶき）を青森から連れてきてMDCに所属させた。

一同の視界から突然飛沫の姿が消え、ハッと見上げると彼はすでに高々と宙を舞っていた。
遠い北国の荒波に揉まれた肉体が、天井からのライトを浴びて勇ましい黒鳥のシルエットを描き出す。

その瞬発力。踏み切りの強さ。ジャンプの高さ。
なんだこりゃあ、と知季はのっけから後頭部をはたかれたような衝撃を受けた。水を正面にして飛びだしながら、鉄棒のない逆上がりのように体を後方に回転させる前逆宙返り。ひとつましがええ、プラットフォームに頭を打ちつける恐れのあるこの種目で、かつてこんなにも大胆な踏み切りをしたダイバーがいたのだろうか？

頂点まで伸び上がったフォームが沈んだ瞬間に始まるえび型の二回半でも、飛沫の演技は見てる者たちの度肝を抜いた。巨体は不利だとの定説をくつがえし、飛沫は巨体ならではの豪快な回転を見せつけたのだ。長身で恰幅のいいダイバーがその体型をフルに生かすと、平凡な二回半でも、①力強く、スケールの大きなものとなる。飛沫の演技はまさにその証明だった。

両手両足をびんと伸ばしたまま、微塵もひざをゆるめることなく回り切った二回半。力と熱の爆発のようなその演技はみているだれをも驚愕させた。
とどめは最後の入水である。

まるでクシラが尾を振り上げたかのようなのだ。
飛び込みは通常、水しぶきを上げないノー・スプラッシュ入水が理想とされている。入水後に上がるしぶきが少ないほどジャッジに好まれる。入水後に上がるしぶきが少ないほどジャッジに好まれる。飛沫の入水はだれもがぎよっとするほどに、やかましかつた。飛沫はパシッと流水を突き破るような音をたてて水中に没し、水の噴水さながらのスパッシュを吹き上げたのだ。静寂を乱し、水面を荒らし、プールサイドにまで白いしぶきを散らして。

進路・夢の実現に向けて、この1問をクリアしよう！

教科 国語 名前
一 文章中の □に入る言葉として、最も適当なものを、次の1から4の中から一つ選び、その記号を書け。

- 1 息を殺す
- 2 息を入れる
- 3 息をのむ
- 4 息を吹き返す

二 文章中に飛沫の飛び込む様子を「①力強く、スケールの大きなもの」と表現しているが、同じような表現を「線部①より後ろの部分から四字で抜き出して書け。」

三 次は、この文章についてのある中学校の先生と生徒の会話である。
□に当てはまる語として最も適当なものを、あとの語群からそれぞれ一つずつ選び、その番号を書け。

先生 「この文章の表現上の特徴として、何か気づいたことがありますか。」
生徒 「この作品は、□を効果的に使っていると思います。
□を、『勇ましい黒鳥のシルエット』とか『逆上がりのように』、『クシラが尾を振り上げたかのように』などの言葉は、場面をとともイメージしやすいです。」

- 【一の語群】 1…倒置法 2…反復法 3…体言止め 4…比喻法
【口の語群】 1…飛沫の飛び込む様子 2…知季の見つめる様子
3…プールの静まる様子 4…夏陽子の爆笑の様子

振り返り	三	一	
	I	二	
	II		